

船船俗ニ上州ヒロダ

上口凡長五丈一尺ヨリ八丈位、横一丈位ヨリ一丈三四尺マテ、

上利根川通ニ有之

〔日本紀略^{十三}條〕寛仁元年九月廿二日丁巳、前攝政^{藤原道長}爲遂宿願、被參石清水宮、公卿以下多被

參、又室家同被參給渡淀川之間、沈平駄船一艘、乘人卅餘人、存命之者十餘人、

〔範圍朝臣記〕高野山御參詣記

永承三年十月十一日丙子、^{此間}廟令參紀伊國金剛峯寺給通、^{藤原賴通}遲明於淀渡、遷御御船、^中

藏人所船一艘、^{召用播磨守行任朝臣檜皮葺平太}

〔今昔物語^{二十六}〕兵衛佐上綏主於西八條見得銀語第十三

今昔兵衛佐^{ト云人有ケリ}、^中船四五艘、船ナド具シテ難波ノ邊ニ行テ酒粥ナドヲ多ク儲

ケ^中略

〔淺井三代記〕磯山の城責落す事

後藤もさすが功有兵なれば、兵船七八艘をし出す、奈良崎心やさぞせきぬらん、平駄といふ小舟

三艘に取のり、一文字にをしぬけん、とす、

〔諸造船式圖〕修羅船 石積船^{俗ニヒロダ}、石舟^{ト云フ}

上口凡長四丈二尺三寸ヨリ四丈七尺マテ、横一丈二尺位、

但板子無之ヲ修羅造船ト云

〔大川出杭御普請書留〕出杭普請所相替儀無御座候、^中人足出方、左之通に御座候、

しゆら船

貳艘^中略

右之通ニ御座候、此段爲御届申上候以上、